



梅津五郎《緑色の太陽》2000

2<sup>2026.</sup>/21<sub>土</sub>→3/22<sub>日</sub>

時 間 9:00~17:00

休館日 2/24(火)、3/2(月)、3/9(月)、3/16(月)

観覧料 一般個人 200円、高校生以下無料

※あゆーむ 2025 年度年間パスポート提示で無料

※中学生・高校生の方は生徒手帳をご提示ください

[主催・会場・お問い合わせ]

白鷹町文化交流センターAYu:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝 7331 番地

TEL.0238-85-9071

# 下落合のアトリエから

Goro Umezawa  
Exhibition

梅津五郎絵画展

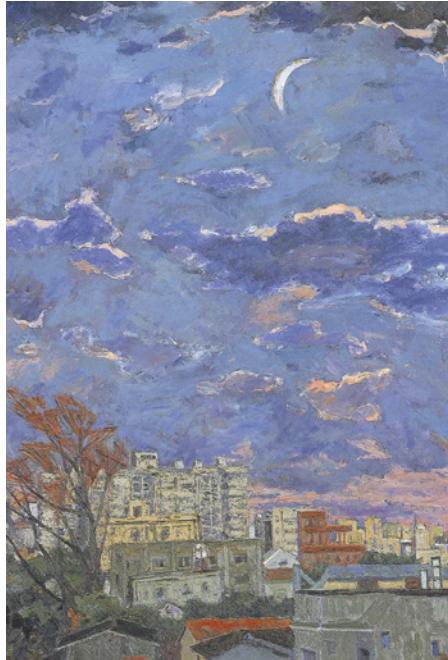


# 下落合のアトリエから Goro Umezue Exhibition

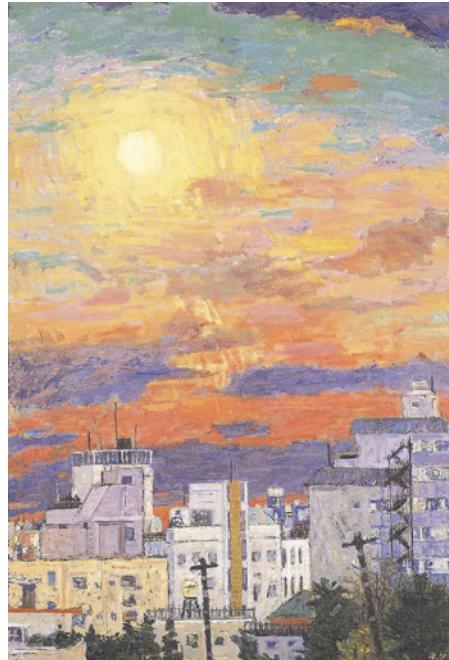
先輩画家佐伯祐三に憧れて同じ町内に住む喜びをこの下落合の高台のアトリエに見出した梅津五郎は、ここで新境地を示す晩年の作品群を生み出す。「暁の月」「緑色の太陽」「新宿の夜の灯」などの傑作群がここから生み出される。ビルや住宅地が折り重なるように画面の下三分の一ほどに描かれ、空が大きな部分を占める。時の移ろい、季節の移ろいに合わせて変幻する空の超現実的・神秘的ともいえる風景を悠揚たるスケールでとらえた作品群である。アトリエの眼下に広がる現実的な街並みと、超現実的な空の描写が一つの画面で独特な世界を主張している。



《暁月》1990



《下落合風景》1997



《下落合の朝》1993

## 梅津五郎プロフィール

1920年(大正9)山形県白鷹町浅立に生まれる。18歳の時画業を志して上京。森田茂、熊岡美彦の両氏に師事する。東光展と日展を主な発表の場として、1956年(昭和31)の第12回日展において、自らが働く中華料理屋の厨房を描いた「調理場」で特選を受賞、独特の生活感が評価される。

1962年(昭和37)、42歳の時にフランスに留学。フランス滞在中にサロン・デ・ボザール展に初出品し準会員に推举される。フランス滞在以後色彩が豊かで鮮やかになり、帰国後極めて厚塗りのタッチで日本の風景を描く。

1980年代からは、日本の風景に加え、自らのアトリエ(新宿区下落合)から見える街の風景や月を描いた作品が多くなり、新境地を示す。

東光会理事長、日展参与などの重責を担いながら一方で売り絵を描かない、注文の絵は描かないという厳しい姿勢を貫き、市場の評価を犠牲にしながらも主要作品多数を手元に置いておいた。晩年郷里の白鷹町に代表作など120点余を寄贈。2003年(平成15)83歳で没する。

2022年(令和4年)には、新たに117点の作品が遺族から町に寄贈された。

## アクセス



## 白鷹町文化交流センターAYU:M

[車] 山形市より国道348号線で約35分  
[電車] 赤湯駅より山形鉄道フラー長井線「荒砥」行「四季の郷駅」下車(赤湯駅から約50分)徒歩約4分  
[お問い合わせ] 0238-85-9071